

ガバナー 佐藤哲章

News Letter

2022 年 1 月吉日

第 3 号

あと 6 か月、これから各クラブの創意工夫と熱意あるのみ

おかげさまで、規模は縮小しましたが昨年 9 月から 11 月にかけてガバナー公式訪問が終了しました。あらためて直接お会いすることの大事さ、アレキサンダー国際会長のメッセージ「Service from the Heart(心からの奉仕)」について皆様にお伝えし、私の 3 つの重点目標をお話ししました。

各ゾーンチェアパーソンの皆様のご尽力と熱心に耳を傾けていただいた各クラブの三役の皆様には心から感謝いたします。

私の重点目標は、

- (1). 「人財育成・会員増強キャンペーン」に積極的に参加して純増の流れを 337-B 地区に確立しよう！
- (2). 「LCIF キャンペーン 100」、LCIF の役割を正しく理解して、地区・クラブシェアリング交付金を、有効に活用しよう。
- (3). 「地域のパートナー団体との連携」

両県の社会福祉協議会との災害ボランティアセンター支援に関する協定で、アラート組織を充実させます。

「ライオンズクラブがわが町にあって良かった」と評価いただけるような活動をしましょう。

会員増強については、12 月末現在で会員数 2,293 名、うち正会員は 1,986 名で 29 名の純増（昨年 6 月比）となっています。1,999 名まで達成したのですが、12 月末に佐土原 LC が解散届を出しましたのでこの数字になりました。

皆様のクラブの会員増強目標の 233 名に関しては 12 月末で 94 名が入会しており、40%の達成率となっております。退会者が 74 名ありました。まだまだ道半ばと言わなければなりません。コロナ禍だからという出来ない理由をいうのではなく、この素晴らしい奉仕活動と研修プログラムと楽しい仲間たちのいるクラブへ“熱意”をもって勧誘しましょう。よろしく願います。

また、昨年 9 月には公認ガイディングライオンが 61 名誕生しました。3 年間の有効期間があり、会員増強やクラブ活性化に大きな役割を果たしていただけると期待しております。1 月 15 日には 2 リジョン LCIF セミナーをハイブリッド方式でズーム開催しました。ニューメンバースクールと FWT 研修会は延期になりましたが、この LCIF セミナーには講師として LCIF エリアサブリーダーの L 大谷と 337MD・LCIF コーディネーター L 吉村にもオンラインで参加していただき、337-B 地区の現在の寄付状況や LCIF 寄付の必要性についてご講演いただきました。また 1 月 22 日には 1 リジョンで同じ内容のセミナーをオンラインで開催いたします。たくさんの皆様の参加を期待しております。

新型コロナウイルス・オミクロン株予防のため 2 月 13 日の 337MD クエストフォーラムの中止が発表されましたが、2 月 19 日の新旧ゾーンチェアパーソン研修会や 2 月 26 日、3 月 5 日の次世代リーダー研究会はいずれかの方法で開催できればと考えております。ライオンズクラブセミナーの素晴らしさを IT を使って普及させることも私たちに対する課題だと思います。



「LCIF キャンペーン 100」、25 万ドルの目標に対して 12 月末の達成率は 42%で全国のワースト 3 に低迷しています。丸山 LCIF 西日本エリアリーダーから先日叱咤激励をいただきましたが、これからの会員のご協力、頑張りにより期待していますし、地区 LCIF コーディネーターと力を合わせて、私自身も真剣に頑張ります。2 月末が褒章の対象ですので何卒ご協力をお願いいたします！

LCIF 財団への最新の 2019-2020 の寄付金額は、約 60 億円、投資純収入約 13 億円、合計約 73 億円、純資産合計は約 347 億円です。日本には交付金が 2016 年熊本地震以降～直近まで約 13 億 3 千万円交付されています。また新たに、「LCIF への寄付はどのようにつかわれているの？最新版」冊子を作りましたので、各クラブで啓蒙用に使って理解を深めていただき LCIF 寄付にご協力いただければ幸いです。

クラブシェアリング交付金の対象クラブは、現在 23 クラブ、合計 680 万円が交付金申請可能額です。337-B 地区の交付金申請可能額も 518 万円あり、ゾーン単位での活用も検討できますので、各クラブにアイデアを募っていきたく考えています。

地域のパートナー団体との連携では、昨年 6 月の宮崎県社会福祉協議会に続いて、1 月 18 日には大分県社会福祉協議会との自然災害発生時における災害ボランティアセンター支援に関する協定調印式が行われ、マスコミにも取材していただきました。これからの災害支援体制づくりがスタートする輝かしい日になったと思います。地区アラート委員会を中心に実働体制の構築が急がれます。

それでは今年度下期・半年間の目標を掲げたいと思います。よろしくお願いたします。

- ① 会員増強 各クラブ 2～3 名以上の新入会員勧誘キャンペーンを達成しよう。(1, 2 リジョン合計で、目標まであと 139 名です。)
- ② 退会者が 6 月末に多く出ない様に、退会率をクラブ会員の 5%以下の目標にして、できれば退会率ゼロを目指しましょう。
- ③ ニューメンバースクールに参加できなかった新入会員には各クラブで独自にニューメンバースクールを開催してください。
- ④ LCIF キャンペーン 100、目標 25 万ドルを達成するために、〇周年事業を開催するクラブは、積極的に 1000 ドル献金をお願いします。
- ⑤ 大分・宮崎県社会福祉協議会とボランティアセンターの後方支援に関する支援協定を締結しましたので、その文面をもって各クラブは市町村社会福祉協議会と一度、意見交換会を開くようにしてください。

大分県社会福祉協議会と災害時の連携協定結ぶ



1 月 18 日(火)大分県社会福祉協議会と 337-B 地区との連携協定式が行われました。これは、今後想定される多くの災害（台風、豪雨、地震等）が発生した場合に、「ライオンズクラブとして何ができるか？地域社会にどのように貢献できるか？」という観点に立ってライオンズクラブらしい社会奉仕活動のあり方と実行計画を宣言するものです。

具体的には、災害ボランティアセンターにおける活動に必要な車両及び資機材の提供やボランティアに対する炊き出しの実施等支援に関する協定を締結し、県内での災害時における迅速で効果的な支援が展開できるよう、連携を図ってまいります。

近年、毎年のように地震や台風・豪雨災害によって甚大な被害が引き起こされており、災害の多発化、被害の甚大化及び広域化が顕著となっています。このような中、被災者の支援を目的として主に被災地の社会福祉協議会が設置する災害ボランティアセンターにおいては、これまで県内外からの多くのボランティアが活動してきましたが、新型コロナウイルス感染拡大を受け、一昨年度九州を襲った 7 月豪雨の際には、県内のボランティアに限定した活動を余儀なくされました。また、南海トラフ地震等の巨大災害時には被災地外からの支援も困難になることが予想され、被災した都道府県や市町村の地域関係者が、連携・協働して被災者支援にあたることを想定した関係づくりが不可欠となっています。今後、337-B 地区のアラート委員会を充実した機動的な組織に改編し、先進的な準地区の事例も参考にしながら、地域社会にお役に立てる事業を展開すべきだと考えています。「え～ライオンズクラブがそこまでやってくれるの？」「ライオンズクラブがわが町にあって良かった。応援しますよ！」と言っていただけるような地域社会の流れを会員の皆様と一緒につくってまいりましょう！

ガバナー L 佐藤哲章のメールアドレスです。 info@kaminoya.jp。ご意見待ってます。